

現代中国におけるナショナリズム

——「伝統演劇」の「創造」を中心に、脚本家と役者さんの抵抗追従——

学生番号：719104 氏名：Zheng, Xinxin (鄭 シンシン)

指導教員：テヅカヨシハル

キーワード：文化ナショナリズム、伝統の創造、ライフストーリー

1. 目的

中国で伝統文化の復興と中国文化、社会、行動と思考様式の独自性を言説する「中国独自性」の創出、その二つの文化ナショナリズムが同時に興起されている。その二つは平行線のように発展していくのではなく交差点がある。それは「伝統」の生産者たちの文化再生産にある。本論文で、伝統演劇の創造者を例とし、彼ら知識人たちの中国独自性の言説をどの程度認め、そして、どのように彼らの作品で取り入れ、中国の独自性を再生産していくのかを明らかにしたい。そして、伝統の創造者としてのミクロな個人レベルでマクロな中国ナショナリズムのあり方を考察する。

2. 方法

一つ目は、文献分析法。張維為の著書で「中国の独自性」についての論述を整理した上で、複数の学者のナショナリズム二次資料を用いて、張維為の所説を分析し把握する。二つ目は、ライフストーリー研究法。「伝統演劇」を「創造」する脚本家と役者に彼らのこれまでの人生を聞き取った上で、彼らがナショナリズムに対する態度と彼らの作品でどのように中国独自論を再生産していくのかなどの問題に注目する。

3. 分析結果

第一に、世代により現在中国のナショナリズムに対する抵抗と追従の態度は分裂している。第二に、中国独自論で言説した文化の独自性と政治の独自性に対する態度は一致ではない。インタビューした全員は文化の独自性を認める。しかしながら、政治の独自性について、改革開放以前に生まれた人は、若い世代に比べ、それをそれほど認めていないと伺える。第三に、「伝統」の「創造者」として、彼らの作品で中国独自性の再生産をすることより、中国伝統思想の知恵、民族精神を自発的に再生産していくと伺える。

4. 結論

まず、「伝統」の生産者たちの再生産について、その五人の文化の生産者が文化ナショナリズムへの参与で彼らは吉野耕作が言及した外的勢力の物理的象徴的暴力に対して解放を求める抑圧の主体である。中高年の方が、非理性的なナショナリズムの喚起に警戒心を持っている。若い世代は、文化ナショナリズムに積極的な態度を持っている。中高年の方は現在中国のナショナリズムに追従しながら対抗的な態度を示し、若い世代に比べ、より矛盾的な心理が表れている。次に、現在中国の文化ナショナリズムについて、現在中国の文化ナショナリズムは儒教文明からの中国独自性のこだわりを通じ、アメリカを代表とする西洋文明に対抗する姿勢を見える。

5. 主要参考文献

吉野耕作 (1997) 『文化ナショナリズムの社会学——現代日本のアイデンティティの行方』 名古屋大学出版会；張維為 (2019) 『这就是中国：走向世界的中国力量』 上海人民出版社